

# 学位論文要旨

看護専門学校教員に対する自己調整学習理論に基づく論文講読プログラムの効果

(Effect of an article reading program based on the self-regulated learning theory

for nursing school teachers)

山本 麻起子

Yamamoto Makiko

指導教員

前田 ひとみ教授

熊本大学大学院保健学教育部博士後期課程保健学専攻

## 学位論文要旨

### [ 目的 ]

持続可能性を懸念される我が国の保健・医療の発展に繋げるためには、新しい知見を得て、看護学教育の質向上に取り組むことは不可欠である。看護教員は、自発的、能動的に論文を読み、研究成果を教育実践に活用していくことが求められる。本研究では、看護専門学校教員に対する自己調整学習理論に基づく論文講読方略の使用を取り入れた論文講読プログラムの効果を明らかにすることを目的とした。

### [ 方法 ]

第一研究は、調査協力の承諾が得られた 48 施設の看護専門学校教員 350 名を対象に、自記式質問紙調査を実施し、論文講読方略尺度と論文講読効力尺度を作成した。さらに、尺度を用いてパス解析を実施し、論文講読方略、論文講読効力、論文講読数、論文講読への苦手意識の関係を検証した。第二研究では、看護専門学校教員 25 名を対象に論文講読方略の使用を取り入れた論文講読プログラムを実施し、プログラム前後の論文講読方略、論文講読効力、論文講読数の変化の統計解析を行った。

### [ 結果/考察 ]

第一研究においては、回収した 174 名(回収率 49.7%)の内、欠損値のない 147 名(有効回答率 84.4%)を分析対象とした。因子分析の結果、「論文講読方略尺度」は、【理解方略】【協同的方略】【整理方略】の 3 因子 9 項目で構成された。「論文講読効力尺度」は、【文献検索・論文理解への自信】【論文講読維持・発展への自信】の 2 因子 12 項目で構成された。各々の尺度の内的整合性、安定性、構成概念妥当性、基準関連妥当性が確認できた。また、パス解析の結果、看護専門学校教員の論文講読数や論文講読への苦手意識には、論文講読方略と論文講読効力が影響すること、論文講読方略は論文講読効力に影響していることが明らかになった。第二研究では、論文講読方略を取り入れた論文講読プログラムを実施した結果、プログラム実施前よりも実施後の方が、論文講読方略尺度得点、論文講読効力尺度得点、論文講読数は増加していた。実施後には論文講読方略の【理解方略】と【協同的方略】が論文講読効力の【文献検索・論文理解への自信】と【論文講読維持・発展への自信】に影響を及ぼすという関係が示された。プログラム実施により、研究から得られた知見を自身の教育指導上の課題と関連付け、知見の意味を理解し、さらに、教員同士で話し合ったことで、教育実践に役立つ知識の整理ができ、自身の教育実践に関連する論文が読めるという自信に繋がったものと考えられた。

### [ 結論 ]

看護専門学校教員の論文講読方略と論文講読効力の尺度を作成し、信頼性・妥当性が確認できた。自己調整学習理論に基づく論文講読方略の使用を取り入れた論文講読プログラムの実施により、論文講読方略の使用と論文講読効力の高まりが示されたことから、看護専門学校教員の自発的、能動的な論文講読につながる可能性が示唆された。